

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291100277		
法人名	株式会社ほっとステーション		
事業所名	グループホームきずなHANARE		
所在地	千葉県木更津市下郡984-2		
自己評価作成日	令和5年10月30日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和5年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念にもある「主役は利用者である」を常に強く意識し、それぞれが自分らしい生活が出来るよう職員は黒子となりサポートする。またそのなかで得る「有意義な時間」「自分にとっての良い時間」/獲得を目指している。
施設見学をされるが「自然に囲まれとても良い環境で過ごされていて素晴らしいです」と絶賛の言葉を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「主役は利用者様であることを強く意識し、『居心地の良い、自分らしい生活ができる場所を作る』お手伝いをする」としており、職員に浸透していることがうかがえる。居心地の良い、自分らしい生活のために、食材切り、配膳、食器洗い、掃除、洗濯物干し、たたみなどを職員と一緒にこなしている。残存機能を活かす良い取り組みだと思われる。職員が食材の買い出しからして食事を作っているが、近隣から野菜が届くこともある。月2回の訪問診療で利用者の健康管理をしており、24時間オンコール体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設して3年目になり事業所理念が、全職員に定着し、新規の職員にも共有してもらい実践をしている。 +D6:G25G12D6:G33DD6:G33	理念はホーム内に掲示して、職員、利用者、家族に周知している。管理者は「居心地の良い」「無理強いをしない」をキーワードとして利用者と職員の笑顔を大切にしている。また、理念は運営推進会議や月次のカンファレンスでも確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	週1回の移動販売を毎週楽しみにしながらそこで会う地域の方達との交流深めています。また定期的に出張理容依頼し利用者様の整容に努めています。	ホームに隣接するデイサービスの駐車場に来る移動販売車は近隣住民も利用しており、交流の場となっている。また、散歩に出ると声をかけてもらえる。また、町内会に加入をしており、今後はお祭りなどに積極的に参加したい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	木更津オレンジフェスタ2023認知症に対する理解と社会への啓発を目的とした活動に写真掲載参加しと施設として協賛しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月8日にコロナ5類になり開設後初めての有人での運営推進会議を行い直接意見交換し合い新しい取り組みに活かして行こうと考えています。	運営推進会議は今年度から対面でおこなっている。出席者は利用者、家族代表、地域代表者、市の担当者、地域包括支援センター担当者などである。入居者の状況、外出状況、行事などを報告している。	運営推進会議では議題としてヒヤリハット、事故報告をしているが、その原因と対応については、丁寧に家族等に周知することも期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	木更津市介護保険運営協議会の委員及び地域密着サービス事業所部会委員を努め、情報交換、連携出来ている。また 街づくり協議会理事として行事への参加をしている。	市の担当課には相談や報告をするなどしている。地域包括支援センター職員は運営推進会議のメンバーであり、相談したり意見を聞いている。また、市の介護相談員を受け入れていている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての指針などの読み合わせ意見交換行っている。また運営推進会議にて報告している。	「身体拘束適正化のための指針」を策定し、定期的に研修をして職員に周知している。身体拘束廃止委員会を3か月に1回実施して、現状について話し合っている。また、スピーチロックに関しては、注意喚起の一覧表を掲示して職員に意識付けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス後の勉強会にて資料やDVDにて学び、施設内では起こっていない事を確認している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がいたので引き続き学ぶ機会を設け制度の理解に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族に理解してもらおう、質問にもすぐに答えることが出来る準備をして納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回(2ヶ月に1回)当施設にて運営推進会議を行い市役所地域包括、町づくり協議会、利用者様家族に参加集って、事業所の運営内容を伝え意見交換の場を設けている。	家族からの意見、要望は、運営推進会議で家族代表から聞いている。また、来所する家族も多く、その際に意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの共有申し送り時、月末のカンファレンスにて職員同士で意見交換し反映させるよう努めている	月次のカンファレンスは職員が意見を言う場としている。管理者は職員から日常的に意見を聞くようにしている。アプリを使用でのコミュニケーションもあり、資料のまとめ方などは、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働きやすい環境作り心がけ自身をもって働けるよう言葉がけをし又向上心をもって働けるよう希望休や資格を取りやすい職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者の為のeライニング認知症介護基礎研修受講により介護の仕事続ける事ができる取り組み他各種研修、国家試験などキャリアアップに繋がる費用は全額負担を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	5月8日のコロナ5類に移行を受け自粛していた交流、外部研修、勉強会を計画実行を進め交流する10月13日車いすメーカー協力の元、併設デイサービス職員も参加で研修を行う。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで得られない情報は本人の行動、ちょっとした仕草、発言等見逃すことのないように配慮し本人の為の安心に繋げていけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時、契約時にご家族の不安な事、本人がどのような環境で過ごしてこられたかなど入所前より連絡は密に取り関係作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族、居宅ケアマネから情報収集し、その時何を必要としているか、どのような支援が必要かを知り早く対応できるよう、職員同士共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主役は利用者様であることを強く意識し、ご本人の意思を尊重したケアを心がけている。自宅にいた時と同じように家事、掃除、洗濯等協力し合い暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会の依頼は出来るだけご家族の都合に合わせてられるよう努めている。遠方のご家族には月に1度以上の電話での近況報告とHANARE便りを発行し日頃の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ5類に伴いアクリル板を取り除き、マスクをお互いに着用しながらですが家族と少しでも近くで会話を楽しめるよう対応している。	馴染みの美容院に行く利用者もいる。面会は玄関先が基本であるが、居室でも可能である。家族以外に近隣に住む利用者の友人の来訪もある。また、孫から手紙が来たり、携帯電話を使用する利用者もあり、これまでの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	勘違いからトラブルにならないように職員が間に入り対応する。対応した職員は内容を共有し防止対策に努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設デイサービスに移動された利用者様本人が不安にならなうようデイサービス利用日に合わせて訪れ交流を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でご本人の思いをよく聞き取るようにしている。ご本人に出来る作業や家事[洗濯物たたみ、干し、食器洗い等]行っている。	普段の会話の中で希望などを聞き取り、職員間で共有している。また、表情や行動からも思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、説明時ご本人やご家族、以前のケアマネから情報収集し、ご本人のおもいを尊重したケアプランになるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様本来のもっている能力を把握しながら常に観察し笑顔になる時、本当に笑えるところを見逃さず、やろうとする思いを大切に、また出来たという達成感を持ち本人の自信に繋がるようケアしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてご本人やご家族と話し合いをもち計画書を作成している。まいつきのカンファレンスで職員に共有し毎月のモニタリングに活かしている。	毎日の申し送りと毎月のカンファレンスで利用者の状況を把握し、職員、家族の意見を踏まえ、計画作成担当者が介護計画を作成している。基本3か月に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録 [個人記録、業務日誌、夜勤日誌等]を行い利用者様1人1人の細かな変化に気付けるよう他のスタッフと共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ5類に伴い面会や外出は対策しながら増やしている。外泊も申請書を用いて記入してもらい外泊中の様子帰所前の検査に協力してもらい感染防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ドラッグストアの移動販売の週1回の買い物を楽しんでいます。食材の買い出しや個々のお買い物の為の外出を増やしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	5月より今までの提携医療機関から変わりましたが、月2回の往診は変わらずで健康管理をしている。変更により24時間、365日診て頂けるようになった。また職員送迎にて外来受診も対応している。	毎月2回の内科医の往診で健康管理をしている。外科等の専門医の受診が必要な場合は、家族の同行を基本としており、難しい場合は職員が対応している。隣接するデイサービスの看護師との連携で、何かあればすぐ対応できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイサービス常駐看護師に情報提供し対応方法の指示を受ける体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関との正確迅速な情報提供できるよう医療情報提供表に記入し職員がいつでも閲覧確認出来るよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し終末期には提携医療機関医師よりご家族に看取りの説明を行い同意書を交わす。	「重度化対応(看取り介護)に関する指針」があり、契約時に説明している。食事量が減少した時などに、医師と相談して家族に状況を説明している。家族の意向を確認したうえで、看取りについての同意書をもらって、ターミナルケアを実施することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医療機関との連絡体制、併設デイサービス看護師による急変時の対処を事前に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え年2回の避難訓練を実施している。訓練時には木更津市危機管理課への報告をし連絡体制を整えている。その際チェックシート、薬1週間分持ち出せるように用意がある。	市の危機管理課と連携し、年2回避難訓練をおこなっている。備蓄食料、服薬剤、ヘルメット、防災頭巾等の一覧表が作成されている。停電に備えて発電機も設置している。夜間想定訓練は今後検討している。	発電機は設置しているが、稼働訓練が未実施である。避難訓練時に稼働し、職員全員が稼働体験することが必要と思われる。また、事業継続計画を完成させることも期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご本人の人格を尊重しお世話をさせて頂いているとの精神でその方の性格等把握し誇りやプライバシーを損なわないことばかけや対応を行っている。	利用者の尊厳を大切にすることは常に心掛け、職員間で共有している。また、居室入室時はノックをするなど、基本に沿って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺っている。利用者様が気兼ねなく希望や想いを発言出来る雰囲気作り、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者様との会話から出てくる希望、どの様に過ごしたいか逃さないようご本人に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、その日の気候洋服の素材、長袖か半袖か好きな色、着心地など確かめアドバイスしながら選んでもらう。定期的に出張でヘアカットや女性の方はお化粧品楽しまれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせて常に皆さんの好みなど話題にしなが一緒に調理したり利用者様と職員が協力し合って片付けを出来るように取り組んでいる。	食材は職員が利用者と相談しながら購入し、職員が調理している。近隣住民から季節の野菜や果物の差し入れがある。訪問時には、利用者が野菜を切るなど、出来ることを職員に見守られながら作業する姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量を1日通して確保し記録している。医師からの指示で水分摂取できるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄出来る方の見守り声掛け、介助が必要な方の排泄パターンの把握を行い、自尊心を損なわないよう配慮しながら個々の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作成して、必要に応じて申し送りをし、排泄パターンを職員間で共有している。トイレ誘導により、自立に繋げる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便が続かないよう記録等確認しながら水分チェック、便通に良いとされている食物繊維多い物やヨーグルト手作り寒天を食事やおやつに提供し服薬管理しながら、なるべく自然に近い形で排便できるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いほしくないが清潔保持の為最低週2回を目安に入浴を勧めている。入浴時間を夜に近い時間帯にするよう、また入浴後の爪切り、保湿などケア対応している。	基本週2回入浴をしており、ゆず湯やバラの花を入れるなど、入浴が楽しめるよう工夫をしている。入浴しない日は、足浴やホットタオルで清拭するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は昼夜逆転やリズムが狂わない程度のお昼寝を行っている。お天気の良い日は布団干しをしたり、毎週シーツ類、枕カバーの洗濯を行い気持ち良く眠れるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表で常時確認出来る体制がある。各自月2回の往診時状態を伝え医師より指示された薬の処方、内容確認し間違いのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の食器洗い、朝の掃除機かけ、テーブル拭き、その他家事など出来る方にはお願いをして手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類になった事から本人の希望に添って自宅に戻れるよう家族と連絡をとり外泊で様子を見ながら自宅地域住民に協力もあり自宅に戻る目標が達成出来た。また家族が遠方において心配もあり退所後は併設デイサービスを利用している。	面会は制限しておらず、家族と外食したり外泊もしている。ホームでも、初詣、桜見物、あやめ祭り、いちご狩り、紅葉狩りなど、多彩な外出予定を計画している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭所持はトラブル防止のためご遠慮をお願いしている。預り金は事務所金庫にて保管しその都度お渡ししている。週1回の移動販売車にてお買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば施設より電話をかけご家族の声を聞いて頂いている。年賀状は家族へ気持ちを込めてなるべく自筆で書いていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気、消臭剤の設置で工夫している。季節感を忘れないように季節のカレンダー、行事に合わせた飾りなど皆さんと協力して作り楽しんでいる。	訪問時には、リビングの大きなソファで利用者が寛いでいる姿があった。リビングには花を掛け、時節柄クリスマスツリーも飾られていた。玄関前の利用者と職員で植えた鉢植えの花に、利用者が水やりをするなど、ホームの生活を楽しんでいる様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が自分で落ち着ける場所を選び座られる。また利用者様の状態や他の利用者様に配慮し誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物を持参して頂きレイアウトも本人やご家族にお任せしている。就寝時の室温調節、冬場は乾燥に注意して濡れタオルを利用し湿度管理している。	利用者は使いなれた家具や家族の写真を持って来ている。また、裁縫道具、編み物の道具を持ち込んでいる人もおり、入居前の生活を継続できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレマーク、居室からトイレまでの動線を必要に応じて付けている。またその人に合った能力トイレ回数や状態に合わせ対応している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと